

小論文

出題意図・解答例

【問題 1】

設問 1

出題意図：

文中の内容についての経済学的思考による理解が正しくできているかを確認するとともに、それについて社会から適切な例を類比できるかどうかによって社会的関心の程度を見ている。

解答例：

A I の発展によって自動運転の技術が発展して普及することで新しい産業が生まれれば経済は成長するだろうが、それによってタクシー運転手や宅配業の従業員の多くが職を失うことになる。(86 字)

設問 2

出題意図：

本文の内容についての理解力とともに、自分の意見を論理的に整理する力とそれを文章化するための表現力を見ている。

解答例：

経済成長率を唯一の目的や豊かさの指標として絶対視する「成長主義」を筆者が批判している点には賛成する。しかし、成長か脱成長かという二分法によって議論することには疑問を感じる。本文中に自動車を買うことと、友人と無為に話することと、どちらが大事かという例があげられているが、多くの人にとってはどちらも大事である。または、友人と会って話をするために自動車が必要なこともあるかもしれないので、両者は不可分に結びついている。物的な豊かさなしに、精神的な豊かさを実現することは一般的に難しい。経済成長は「進歩」の唯一の基準ではないとしても、それは豊かさのひとつの基準であると私は考える。(287 字)

令和 5 年度 和歌山大学経済学部第 3 年次編入学選抜

小論文

出題意図・解答例

【問題 2】

設問 1

出題意図：比較的長文から、筆者の考えを理解できたかをみる。

解答例：

伝統的自然科学で研究の対象は「こころ」を持たないのに対して、社会科学の研究対象は「こころ」を持つ人間である。そして人間は、一方で無意識に「未来」を予想しながら、また他方で、「他者」の考えや行動に影響を受けつつ、行動している。これらが「不確実性」を生じ、その結果、人間社会の研究は難しくなる。(145 字)

設問 2

出題意図：第 1 に、比較的長文から、筆者の考えを理解できたかをみる。第 2 に、経済学の基本である需要と供給の調整メカニズムに関して、「蜘蛛の巣サイクル」の内容を的確に説明できるかをみる。

解答例：

古典派経済学は「供給者は来期も今期と同じ価格が成立する」と「期待」するとした。すると、需要と供給は直ちに一致せず、期待と現実の乖離が繰り返される、言い換えれば、供給超過と需要超過を繰り返す結果、需給の調整にタイムラグを伴う。この過程を表すのが「蜘蛛の巣サイクル理論」であり、この理論は確かに需給の調整メカニズムを明らかにした。しかし、第一に、来期の価格が今期と同じという「期待」は単純過ぎ、現実には即していない、第二に、需要曲線と供給曲線の傾き如何によっては、需給が一致する点に価格は収束せず、逆に発散する状態が生まれる、という二つの難点がある。このうち前者から、期待を理論化することの難しさがいえる。(300 字)